

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係 沖縄返還交渉Ⅱ-1（対内）

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2020-05-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/45929

自是光外交網李后
只二九

70111用

(40後修正)



自民党外交調査会における愛知大臣
説明（沖縄問題）

44.8.26

アメリカ局北米一課

1. 私は、本年6月の訪米において、米国政府に対し、沖縄返還交渉に対する日本政府の基本的立場を説明した。すなわち、(イ)遅くとも、1972年中には、沖縄の施政権がわが国に返還されるべきこと、及び(ロ)施政権返還後の沖縄に残される米軍基地については、日米安保条約及びその関連取極が、本土の場合と同様に、そのまま適用されるべきことの2点を主張し、同時に、とくに、核兵器の問題について、わが国には、唯一の被爆国として、核兵器に対する特殊な、強い感情のあることを説明し、その点に対する米国政府の慎重な配慮を求めた。
2. その後、日米両政府間において来るべき佐藤ニクソン会談において、施政権返還の時期を含む施政権返還の大綱について、合意に達することを共通の目標として鋭意、話し合いが進められている。先般の日米貿易経済合同委員会の際、

ロジャーズ国務長官と総理及び私の会談において、基本的な問題について話合つたが、その後、事務レベルに命じて米側との詳細な詰めを行なわしめている。

3. 当面は、佐藤ニクソン会談の共同コミュニケに盛りべき事項を中心に、日米両政府の立場を整理調整することに重点がおかれているが、その焦点は、核兵器と自由出撃の問題である。現在交渉中のことでもあり、詳細な説明はひかえさせていたが、これまでの交渉を通じて、彼我双方の立場は、逐次明確となつて来ている。私は、9月の国連総会出席の途次、ワシントンに立寄り、ロジャーズ国務長官と会談し、それまでの交渉を基礎に、佐藤ニクソン会談で合意すべき事項について出来るだけ、話を詰めるべく努力する考えであるが、問題の重要性にかんがみ、首脳会談まで結論の持越される問題もあり得るのではないかと思われる。

4. いずれにせよ、政府としては、上記の基本的立場の実現に最善をつくす決意で、努力してい

る。米國側も日米關係全般の大局的かつ長期的見地から、本問題の解決をはかるとの態度をとつてゐることが窺取されるが、安全保障上の問題はお互に慎重対処しなければならぬところであり、佐藤ニクソン會談において、わが國益に則した解決に到達するには更に一段の努力を要するところである。

北米第一課長

10行

- 原田 3人 (大塚, 大塚)
- 須藤
- 米田
- 米田
- 米田
- 米田
- 米田

裁
無 期 限

自民党外交調査会における愛知大臣
説明（沖繩問題）

4 月 26 日
アメリカ局北米一課

1. 私は、本年6月の訪米において、米國政府に対し、沖繩返還交渉に対する日本政府の基本的立場を説明した。すなわち、仰遷くとも、1972年中には、沖繩の施政權がわが國に返還されるべきこと、及び同施政權返還後の沖繩に残される米軍基地については、日米安保条約及びその関連取極が、本土の場合と同様に、そのまま適用されるべきことの2点を主張し、同時に、とくに、核兵器の問題について、わが國には、唯一の被爆國として、核兵器に対する特殊な、強い感情のあることを説明し、その点に対する米國政府の慎重な配慮を求めた。
2. その後、日米両政府間において来るべき佐藤總理・ニクソン大統領領會議において、施政

縮返還の時期を含む施政権返還の大綱について、合意に達することを共通の目標として鋭意、話し合いが進められて来た。先般の日米貿易経済合同委員会の議ロジャーズ副委員長と総理及び私の会談において、基本的な問題について重ねて話し合ったので、その後、事務レベルに合わせて米側との詳細な詰めを行なわれ、ようやく佐藤ニクソン会談の共同声明案の骨子の作成にかかっている段階である。

3 朝鮮半島をめぐる緊張など、極東の国際情勢についての基本的認識は一致していると言えよう。同時に米側としては韓国及び国府の立場への~~米側の~~考慮が相当反映しているとみられる。米国内には色々の意見もあるようだが、今までに得た印象によれば國務省を中心に日米関係全般の大層的かつ長期的見地から、1972年中の沖縄返還と安保条約及び関連諸取り決めを返還後そのまま適用することにつき対日歩み寄りに努力を払っている感じが

する。

4 但し、安全保障上の問題には慎重で、後述の約束はまだ取つけておらず、また必要の場合の戦闘作戦行動のための基地使用についても強い関心を示しており、合意に達していない。(また米側にとつてヴェトナム戦争が返還の際に未だ終わっていない場合にどうするかが関心の一つの焦点になつている様である。)

5 私は、9月の国連総会出席の途次、ワシントンに立寄り、ロジャーズ國務長官と会談し、上に述べた経過を背景に佐藤ニクソン会談で沖縄返還問題の決着をつけ得るように、共同声明案の大綱等につき合意への端緒を掴みたいと考えている。いずれにせよ、政府としては、上記の基本的立場の実現に最善をつくす決意で、私の帰国後総理訪米を目標にさらに一層努力するつもりである。